

施設の目的

様々な災害から身を守り、生き抜くことができるよう災害対応力を身につける学習を体験を通じて学びます。最新のシステムを活用し防災意識を高めることを目指します。

ご利用案内

休館日 毎週月曜日と火曜日
年末年始(12月29日～1月3日)

開館時間 9時～17時

施設の体験 施設の体験は無料ですが、予約が必要です。各コースとも20人以内を1グループとし、最大3グループが体験できます。

コース	体験開始時間	体験終了時間
1	9:00	10:20
2	10:30	11:50
3	13:00	14:20
4	15:00	16:20

予約の受け付け

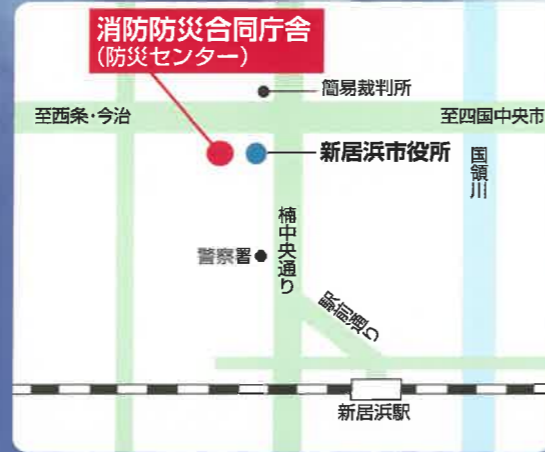
体験予定日の2か月前から受け付けできます。平日8時30分～17時15分までの間、新居浜市防災センター(電話0897-65-1583)で受け付けます。まずは、お電話又はホームページで予約状況の確認をお願いします。

予約の受付の流れ

電話又はホームページで予約状況の確認

希望する人数、代表者の連絡先を伝え事前予約

所定の用紙をメール
(bousaicenter@city.niihama.lg.jp)
又はFAX(0897-47-5622)で送付するか、当日、受付で所定の用紙に記入を行い、予約受付完了です。



新居浜市一宮町一丁目5番1号
TEL:0897-65-1583
FAX:0897-47-5622
<http://bousaicenter.city.niihama.ehime.jp/>

防災意識を高め 「自助」「共助」について 学びましょう

新居浜市防災センター

Niihama City Disaster Prevention Center

ごあいさつ
新居浜市長
石川 勝行



近年、これまでの予想を超える風水害が各地で発生しています。また、阪神・淡路大震災、東日本大震災などの大きな地震も発生しており、その被害は甚大で、多くの尊い人命が失われています。

当市におきましても、平成16年に度重なる台風が直撃し、市内各所で土砂崩れや土石流、流木による橋梁の消失、洪水などが発生し、甚大な被害をもたらしました。また近い将来に発生が危惧されている南海トラフ巨大地震は、最大クラスでマグニチュード9、震度7という巨大な揺れが見込まれ、地震発生時にどういった行動をとれば良いか日ごろから考え、備える必要があります。

この度、完成いたしました防災センターでは、煙からの避難や初期消火、地震などの災害の疑似体験により防災・減災について学んでいただくことが出来ます。自分の命は自分で守る「自助」、近所・地域などを守る「共助」について考えていただくことで、防災意識の向上に役立てていただければと思います。市民の皆さまが安全に安心して暮らすことのできるまちづくりに向け、更なる防災力の向上に努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年4月



日本消防協会 特別表彰「まとい」



災害を疑似体験し 災害対応力を身につける

私たちが行う防災対策において大切なことは、自分の身の安全を守るために一人ひとりが取り組む「自助」。自分の命が確保できれば、次は家族、近所、地域を守る「共助」が必要です。

新居浜市防災センターは、様々な災害から身を守り、生き抜くことができるよう、災害対応力を身につけるための施設です。ご家族で、近所・地域の皆さんと一緒に体験し、「自助」「共助」について学んでみませんか。



通報体験

適切な119番の通報を体験し、いざというときに落ち着いて対応できるように学びます。



消火体験

まずは大声で火災を知らせ、台所火災をシュミレートしたスクリーンに向かって正しい消火器の使い方を学びます。

1階

疑似体験を通じて災害の恐ろしさや身の守り方などを学ぶ災害学習ゾーン



災害情報展示

地震・水害・火災の発生メカニズムなどを学びます。また、55インチの大きなタッチパネルでハザードマップを操作し自分が居住する場所の危険を調べることができます。



災害体験

地震の揺れを体験する装置に乗り、画像・効果音を合わせた臨場感のある地震・土砂災害を疑似体験します。



大型モニター

防災に関する映像などを視聴できます。

2階

主に大型シアターで市全域と地域ごとの災害特性を学ぶ防災学習ゾーン



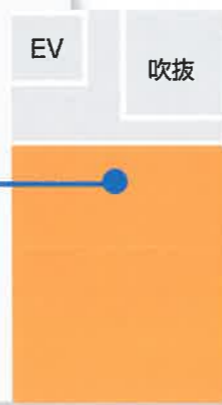
煙避難体験・避難器具体験

煙の恐さ、命を守る避難手段を知り、いざというときに備えます。



シアター

学習のスタート場所です。過去の災害や予想される災害について、ガイダンス映像を視聴します。学習コースの最後はまとめ講義を行い、防災意識を高め、いざというときに自発的に行動できるようにアドバイスします。



災害への備え、災害後の行動 VR体験

災害前にできる備え、災害後の対応を学びます。また、VR(※)を使用した火災・水害の疑似体験を行います。

※VR…「Virtual Reality バーチャルリアリティ」の略。日本語では「人工現実感」あるいは「仮想現実」と訳される。コンピューターなどによって作り出された人工環境を現実として知覚させる技術であり、このVR技術によって限りなく実体験に近い体験が得られる。